

Just Now

1. はじめに

福岡県最南に位置する大牟田市は、平成9年の閉山まで石炭関連産業地域として日本のエネルギー産業を支えてきた街です。近年は、新しい街づくりに向け、市をあげて様々な取組がなされています。

教育についても、市の特色のひとつとして、平成12年度から全小学校で英語活動を取り組み始め、今年で10年目を迎えています。教育特区ではなく、通常の公立小学校での英語活動であり、しかも、学級担任を中心とした取組です。各学校では、授業を中心に校内研修を行い、子どもの実態に応じて工夫した実践を重ねてきました。また、市教育委員会には、学校の要請に応じ、多様な研修や具体的な支援を行っていただいています。なお本市の英語活動の取組については、市教育委員会のWebサイトをご覧ください (<http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/english/#>)。

明治小学校は、平成18年度に市教育委員会から「英語活動」の研究指定を受けました。また、平成19年度から文部科学省の「小学校における外国語活動等国際理解活動推進事業」の拠点校、平成21年度は「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業」の研究校、さらに、国立教育政策研究所の「小学校における英語教育の在り方に関する調査研究」の協力校として、外国語活動（英語活動）の研究を行ってきました。現在は、県教育委員会から3ヵ年の重点課題研究指定を受け、「コミュニケーション能力の素地を広くむ外国語活動の創造」を主題に、『英語ノート』（文部科学省）等に加えた独自教材の開発と評価の在り方、他教科との関連内容を取り入れた指導計画

学級担任を中心とした 外国語活動（英語活動）の取組

馬場直子 Baba Naoko
(福岡県大牟田市立明治小学校)

の作成、中学校外国語科（英語科）との円滑な接続について等の研究に全職員で取り組んでいます。

2. 学級担任が進める外国語活動（英語活動）

本市では、ALT との T-T の授業は年間数回しかなく、学級担任を中心に外国語活動を行っています。明治小学校でも、「担任を中心に児童と共に楽しむ外国語活動（英語活動）」を合い言葉に実践しています。学級担任が進めるよさには、次のような点が考えられます。

- ・子どもの実態を把握している
 - ・子どもの実態に応じた活動を計画できる
 - ・活動中も、子どもの様子を見ながら指導できる
 - ・教師が英語を話そうとするモデルとなることで、教師の姿を見て子どもも意欲的に活動する
 - ・外国語活動のよさを学級経営に生かすこともできる
- そこで、学級担任が進める外国語活動の充実を図るため、本市・本校の特色である全職員による協働体制で、様々な取組をしています。

3. 外国語活動の授業の推進

新学習指導要領では小学校5・6年生で外国語活動が必修となり、平成23年度の完全実施に向け、各学校ではその準備が急がれています。本校では、5・6年生の担任は、『英語ノート』の内容をもとに、これまでの本校の英語活動の実践を踏まえて、5・6年生の2年間を見通したカリキュラムを作成しました。また、授業では、『英語ノート』に示されたゲームを繰り返したり、活動を入れ替えたり、別の活動を加えたりするなど、子どもの実態に応じた工夫をしています。

外国語活動では、基本的に言葉や文化についての体験活動・ゲーム・交流活動・チャンツ・歌等の中

心に聞く・話す活動を行うことにはなりますが、実践を通してながら本校なりの毎時間の指導案(5・6年生の70時間分)を作成したところです。

1年生から4年生の担任は、外国語活動の目標や内容、そして、『英語ノート』に基づいて、それぞれの学年の英語活動がどのように外国語活動につながっていくのか、教材・教具の開発を行い、様々な授業を工夫しています。また、全学年とも、毎週水曜日の朝に15分間の「コミュニケーションタイム」を設け、外国語活動に関連した活動を行っています。

また、文部科学省作成のソフトや自作ソフトを使って、電子黒板を用いた授業を進めています。電子黒板は、子どもたちの反応を見ながら、簡単に絵を提示したり、発音や歌を聞かせたりできるし、さらに、絵や写真も自由に動かしたり、加工したりすることができるので、子どもたちの興味を高めながら活動を行うことができます。自作ソフトの作成は、研究主任を中心に、それぞれの担任が行っていますが、全教師の共有教具として職員室に保管し、いつでも使用できるようにしています。もちろん、全ての授業を電子黒板を活用しながら進めているのではなく、必要に応じて効果のある使い方をするように留意しています。

さらに、子どもたちが日常生活を通して英語表現に触れる機会があれば、自然に慣れ親しむことができると考え、学年掲示板の活用やネイティブの音声聞こえるアナウンスショット(人が通ったときに音声流れる装置)の設置、放送委員会による簡単な英語での放送等、校内環境の整備を行っています。



写真 子どもたちも進んで電子黒板を活用する授業

教材・教具の準備では、学習支援ボランティアに手伝っていただくこともしています。そして、教職員の研究や授業の教材・教具の共有化を図るために、校内研究便りの発行や教材コーナーの整備に努めています。

4. 校内研修の充実を

外国語活動を進めていくためには、やはり校内研修を十分に行う必要があります。そこで、本校では、学級担任の意欲の高揚と不安の解消を目ざし、年度当初に年間計画を立て、下図のように研修内容を研究内容と関係づけて、効率的・効果的に行うよう努めています。

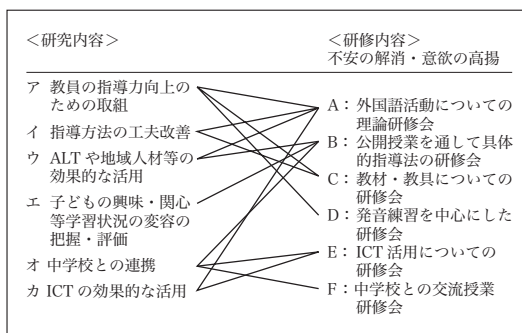


図 研究内容と研修内容

本校の職員室では、誰かが外国語活動の教材・教具を作っていると学年を超えて協力したり、アイデアを出し合ったりしている姿がよく見られます。教師も楽しんで外国語活動に取り組んでいます。だからこそ、子どもたちも意欲的に活動していると思われれます。

5. おわりに

外国語活動の目標は、「コミュニケーション能力の素地を養うこと」です。1年生から4年生に関しては、新学習指導要領等で指針が示されてはませんが、本校では、この目標を踏まえて取り組んでいます。英語が上手に話せなくても、少くくらい間違っても、許容しています。子どもが人との関わりを楽しみながらコミュニケーションを図る大切さを学んでいくことこそ、外国語活動の目指すところということを忘れず、今後も全職員で授業づくりを考えていきたいと思ひます。